

## 農作物病害虫発生現況情報（5月） 水稻編

## 1 細菌病類

- (1) 巡回調査では、発生施設率、発生箱率ともに平年よりやや高かった（表1）。
- (2) 腐敗症状苗 18 サンプルについて菌の分離を行った結果、もみ枯細菌病が 10 点、苗立枯細菌病が 6 点、両者の重複感染が 2 点であった。

## 2 苗立枯病

- (1) 巡回調査では、発生施設率、発生箱率ともに平年よりやや低かった（表1）。一方、山間部の施設では、発生程度が高い事例も確認された。
- (2) 関与菌は、ピシウム属菌（ムレ苗含む）によるものであった。

## 3 ばか苗病

- (1) 県内広く発生が確認されたが、発生箱率は平年より低かった（表1）。

表1 育苗施設の病害発生状況

単位:巡回調査施設数

調査地域	調査施設数	病害発生施設数			
		細菌病類	苗立枯病	ばか苗病	
県北部	3 ( 3)	1 ( 1)	0 ( 0)	3 ( 2)	
県中部	16 (16)	5 ( 5)	3 ( 3)	13 (10)	
県南部	11 (12)	3 ( 1)	7 ( 8)	10 (12)	
遠野・沿岸部	4 ( 4)	2 ( 1)	0 ( 1)	3 ( 4)	
合計	34 (35)	11 ( 8)	10 (12)	29 (28)	
発生施設率 (%)	R1	—	32.4 (22.9)	29.4 (34.3)	85.3 (80.0)
	平年	—	20.9	37.2	86.5
発生箱率 (%)	R1	—	0.59 (0.21)	0.19 (0.26)	0.42 (0.35)
	平年	—	0.43	0.44	0.62

※( )は平成30年の調査結果

※平年値:H21-30 10ヶ年

#### 4 イネミズゾウムシ

- (1) 基準圃場（北上市成田）では、5月第4半旬に成虫の侵入が確認された。
- (2) 5月下旬の巡回調査では、成虫の発生圃場率は平年並で、一部の圃場で食害がみられた（図1）。

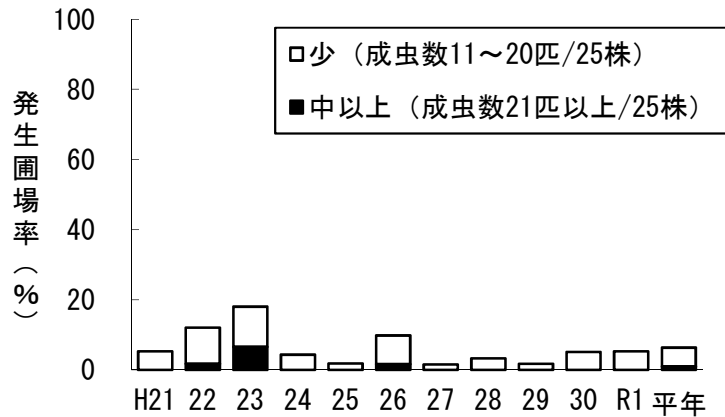


図1 イネミズゾウムシ成虫の発生圃場率の年次推移 (5月下旬)

#### 5 イネドロオイムシ

- (1) 基準圃場（北上市成田）では、5月第5半旬現在確認されていない。
- (2) 5月下旬の巡回調査では、成虫の侵入及び産卵が認められた圃場はなかった。

#### 6 イネミギワバエ

- (1) 5月下旬の巡回調査では、産卵のみられた圃場率は平年より少なかった（図2）。

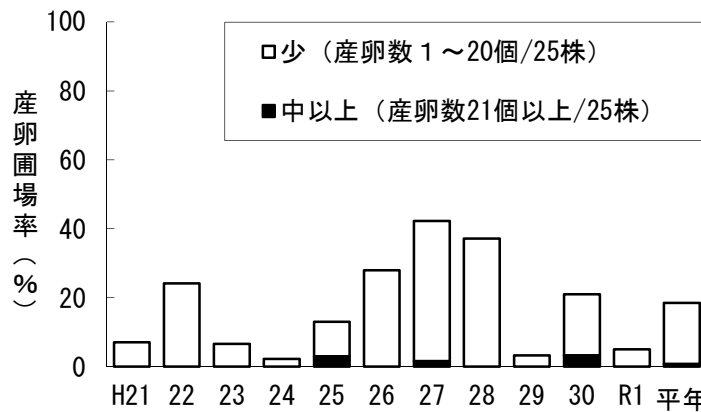


図2 イネミギワバエの産卵圃場率の年次推移 (5月下旬)

#### 7 斑点米カメムシ類

- (1) 基準圃場（北上市成田、イタリアンライグラス）におけるすくい取り調査では、5月第5半旬に越冬世代幼虫が確認された。アカスジカメ成虫の発生は確認されていない（表2）。

表2 基準圃場における斑点米カメムシ類すくい取り調査結果（北上市成田、往復20回振）

調査日	成虫 (頭数)		幼虫 (頭数)
	アカスジ	アカヒゲ	
5/2	0	0	0
5/8	0	0	0
5/14	0	0	0
5/20	0	0	0
5/24	0	11	2

## 農作物病害虫発生現況情報（5月） 麦 編

## 1 うどんこ病

(1) 5月中旬の巡回調査では、発生は平年並みに少なかった(図2)。

(2) 発生が見られたのは、銀河のちから(うどんこ病抵抗性：中)の1圃場のみであった。

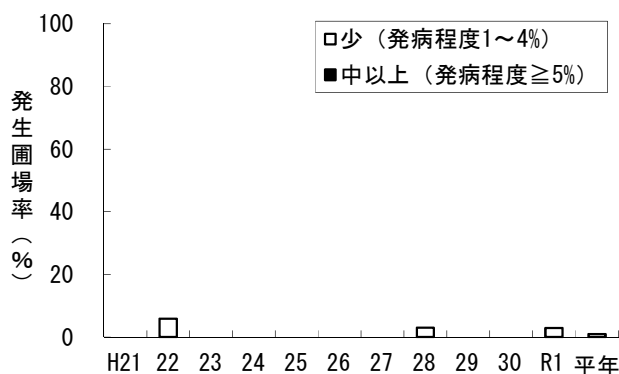


図1 うどんこ病の発生圃場率の年次推移(5月中旬)

## 2 さび病類(赤さび病)

(1) 5月中旬の巡回調査では、発生は見られなかった(図2)。

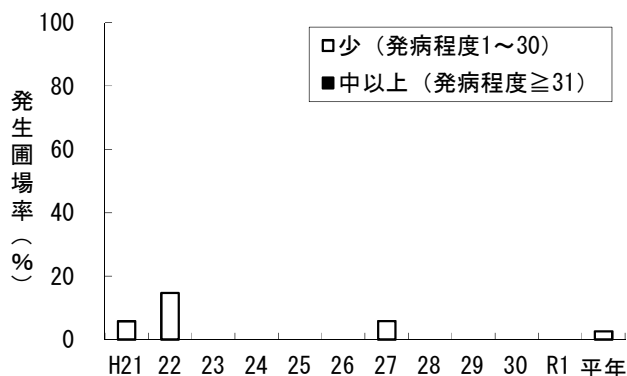


図2 さび病類(赤さび病)の発生圃場率の年次推移(5月中旬)

# 農作物病害虫発生現況情報（5月） りんご編

## 1 モニリア病

(1) 5月の巡回調査では、発生が確認されなかった(図1)。

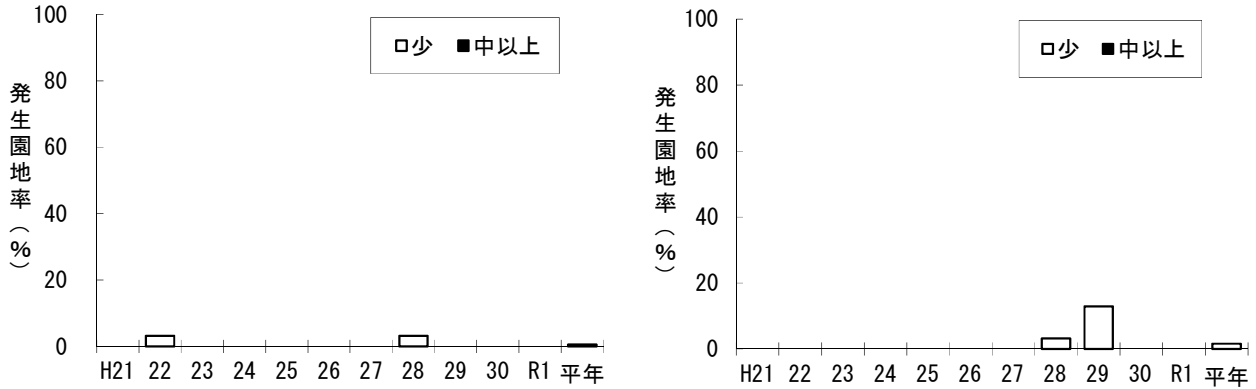


図1 モニリア病の発生園地率の年次推移 (左図：5月前半、右図：5月後半)

## 2 腐らん病

(1) 5月の巡回調査では、発生園地率は平年よりもやや低かった(図2)。

(2) 地域別の発生園地率は、県中部では平年並であった(図3)。

(3) 部位別病斑数は、枝腐らんの発生が平年並であった(図4)。

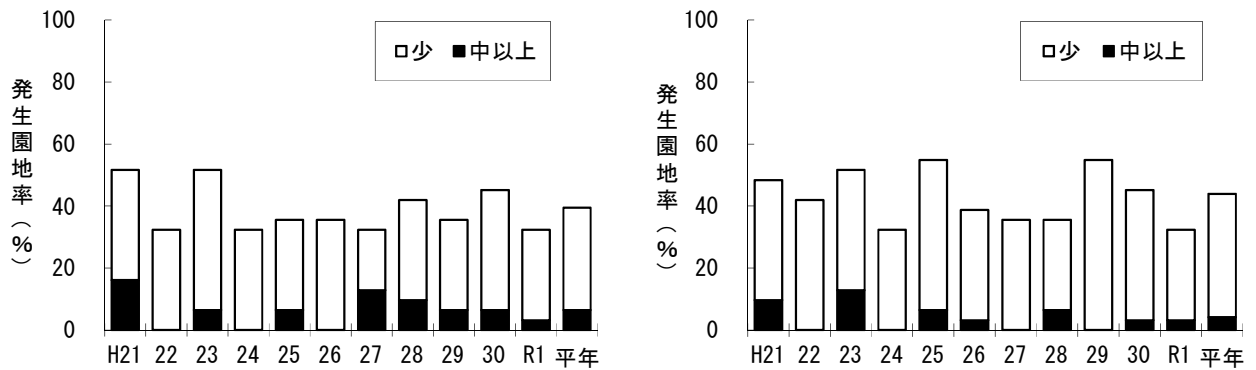


図2 腐らん病の発生園地率の年次推移 (左：5月前半、右：5月後半)

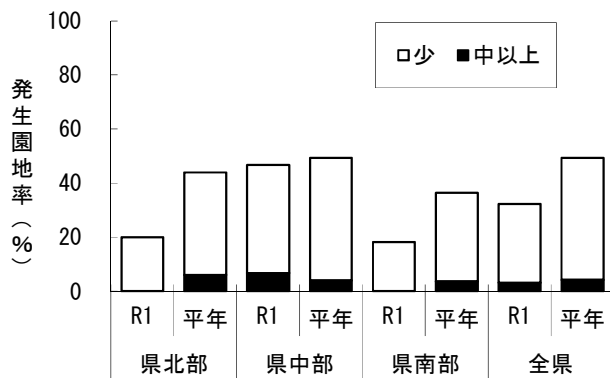


図3 腐らん病の地域別発生園地率 (5月後半)

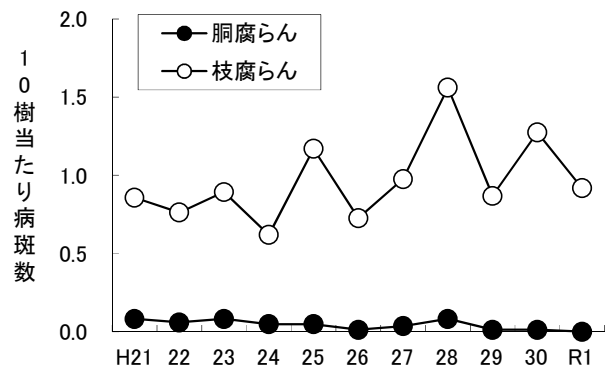


図4 腐らん病の部位別病斑数の年次推移 (5月の最大値)

### 3 斑点落葉病

- (1) 5月後半の巡回調査では、ふじ、王林ともに発生が確認されなかった(図5)。  
 (2) 基準圃場(北上市・スターキングデリシャス)でも、5月27日現在、発生が確認されていない(平年初発:6月第2半旬)。

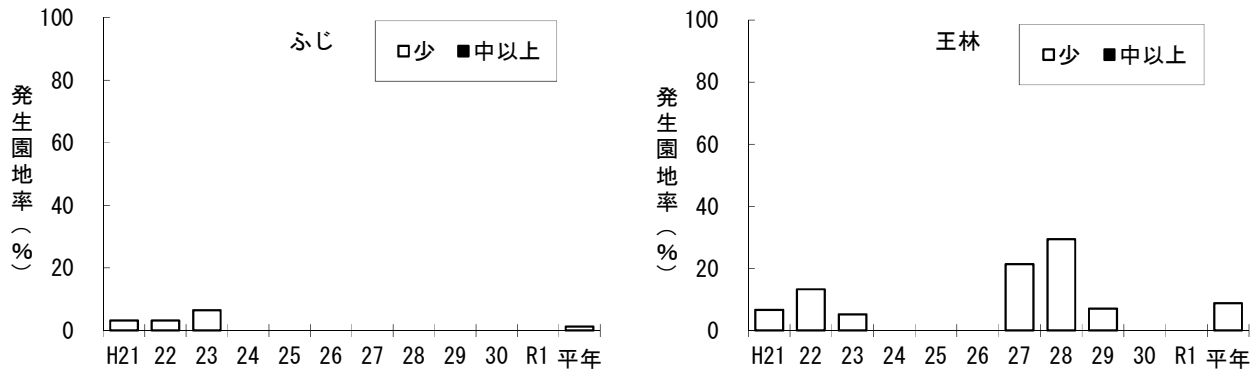


図5 斑点落葉病の発生園地率の年次推移(5月後半、果叢葉)

### 4 黒星病

- (1) 5月後半の巡回調査では、前年発生程度が高かった県北部の2圃地で発生が確認された(図6、7)。

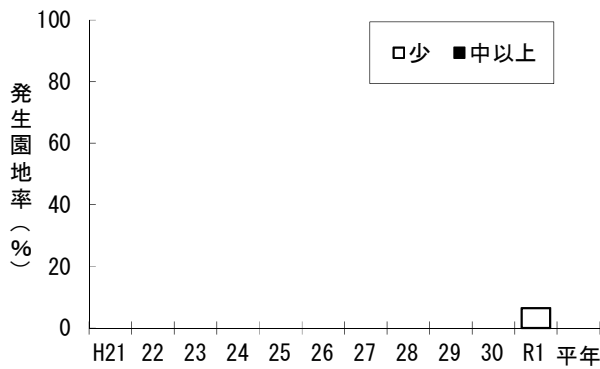


図6 黒星病の発生園地率の年次推移(5月後半、果叢葉)

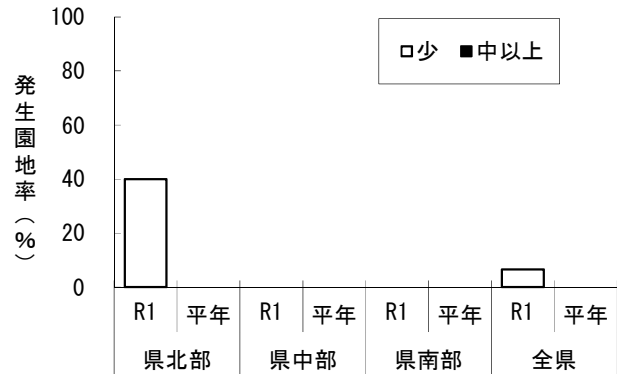


図7 黒星病の地域別発生園地率(5月後半、果叢葉)

### 5 うどんこ病

- (1) 5月後半の巡回調査では、一部の圃地で発生が確認された(図8)。

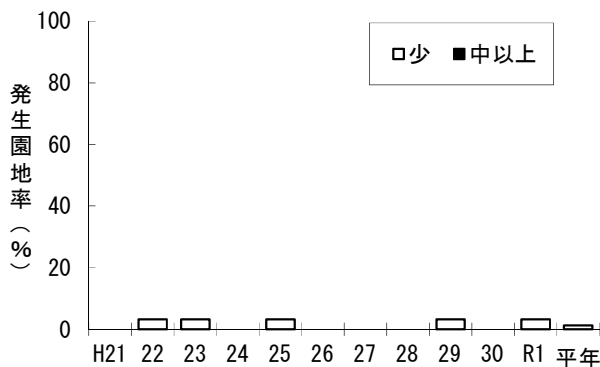


図8 うどんこ病の発生園地率の年次推移(5月後半、果叢葉)

## 6 リンゴハダニ

- (1) 巡回調査での発生園地率は、5月前半は平年より低かったものの、後半は平年より高かった。発生程度中以上の園地は、5月前半には見られなかったが、5月後半に概ね平年並となった(図9、10)。
- (2) 地域別発生園地率は、県中部、県南部で平年より高かった。(図11)。

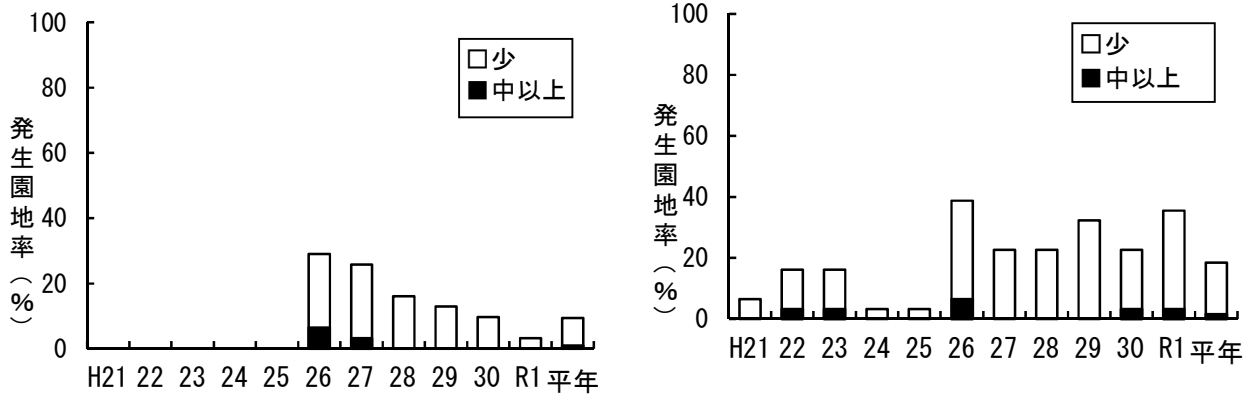


図9 リンゴハダニの発生園地率の年次推移 (左：5月前半、右：5月後半)

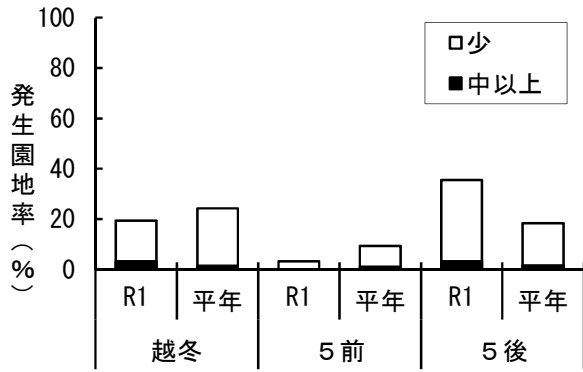


図10 リンゴハダニの時期別発生状況の推移

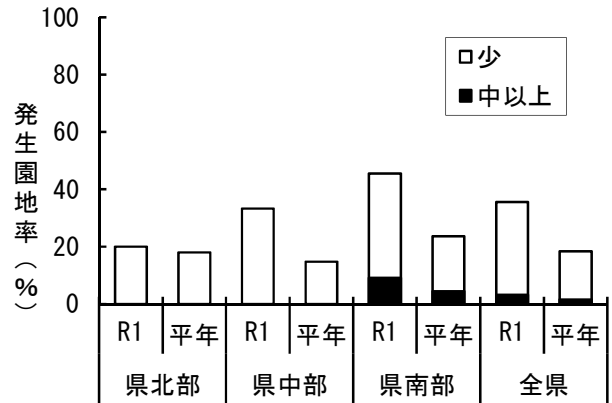


図11 リンゴハダニの地域別発生状況 (5月後半)

## 7 ナミハダニ

- (1) 巡回調査での発生園地率は、5月前半は平年よりやや低かったが、5月後半は平年並となった。発生程度中以上の園地は、5月前半には見られなかったが、5月後半では平年よりやや高かった(図12、13)。

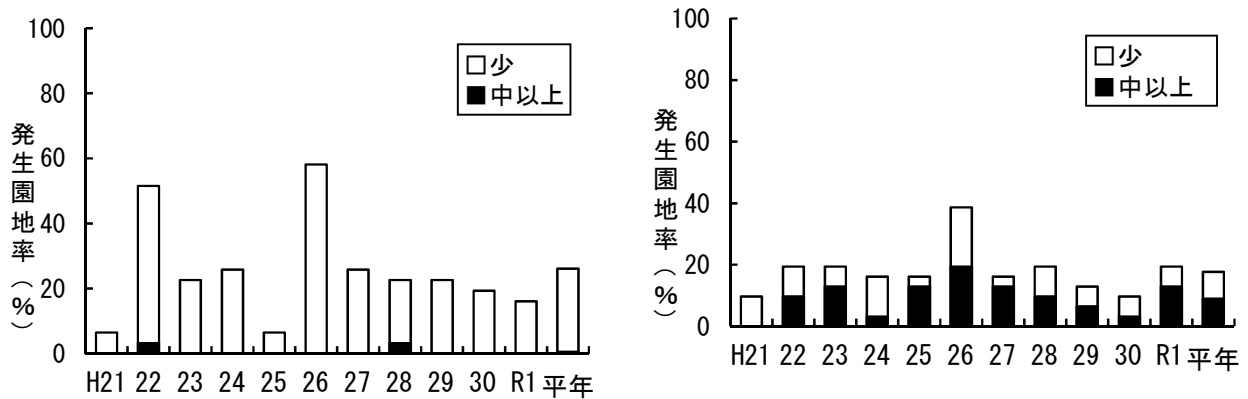


図12 ナミハダニの発生園地率の年次別推移 (左：5月前半、右：5月後半)

(2) 地域別発生園地率は、県北部で平年より高かった (図 14)。

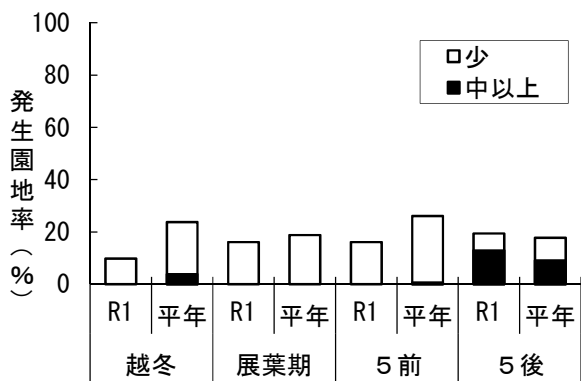


図 13 ナミハダニの時期別発生状況の推移

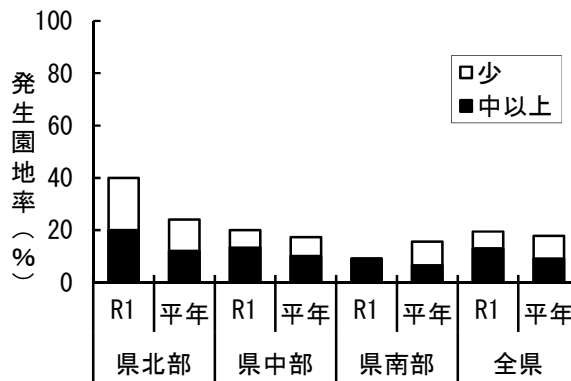


図 14 ナミハダニの地域別発生状況 (5月後半)

## 8 ハマキムシ類

(1) 巡回調査での発生園地率は、5月前半、5月後半とも平年並より低かった(図 15)。

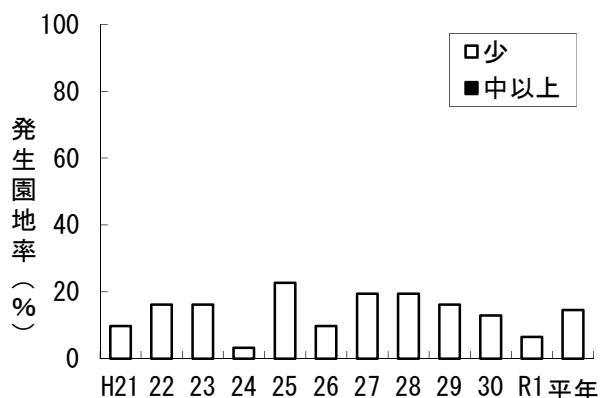
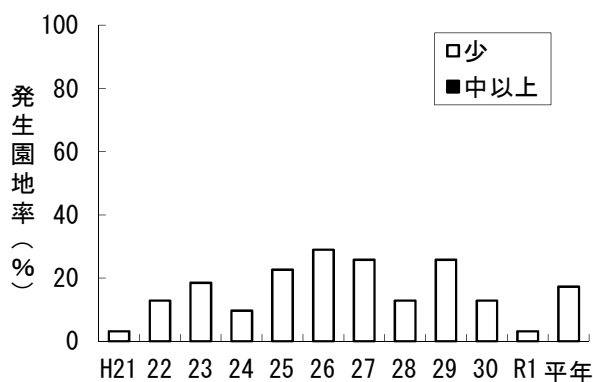


図 15 ハマキムシ類の発生園地率の年次推移 (左：5月前半、右：5月後半)

## 9 ギンモンハモグリガ

(1) 5月後半の巡回調査での第1世代幼虫の発生園地率は、平年より低かった (図 16)。

## 10 アブラムシ類

(1) 5月前半の巡回調査での発生園地率は、平年並であった (図 17)。

(2) 発生が見られた種は、リンゴクビレアブラムシであった。

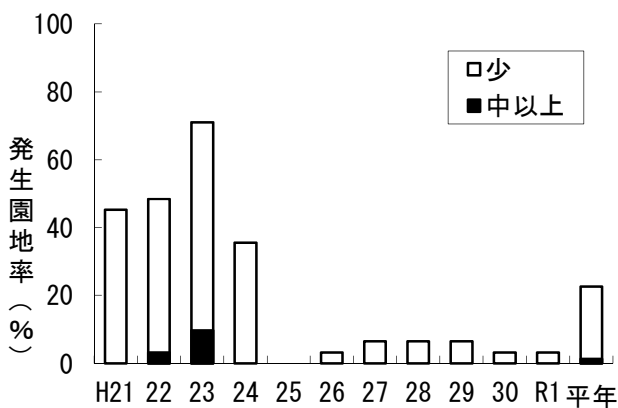


図 16 ギンモンハモグリガの発生園地率の年次推移 (5月後半)

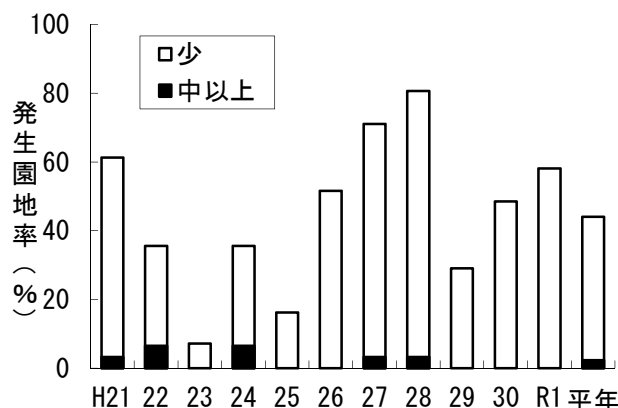


図 17 アブラムシ類の発生園地率の年次推移 (5月前半)

### 11 ヤナギルリチョッキリ

(1) 5月後半の巡回調査での発生園地率は、平年より低かった(図18)。

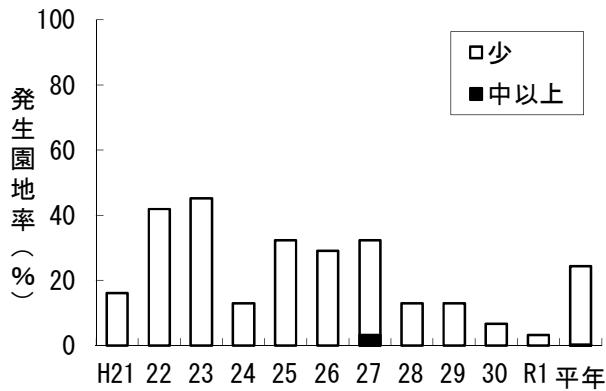


図18 ヤナギルリチョッキリの発生園地率の年次推移(5月後半)

### 12 モモシンクイガ

(1) 無防除圃場(北上市成田)におけるフェロモントラップには、おおむね平年並の5月第5半旬に誘殺が確認された(図省略)。

### 13 キンモンホソガ

(1) フェロモントラップにおける越冬世代の誘殺は、無防除圃場(北上市成田)では平年より1半旬早い4月第5半旬にピークが認められた(図19)。

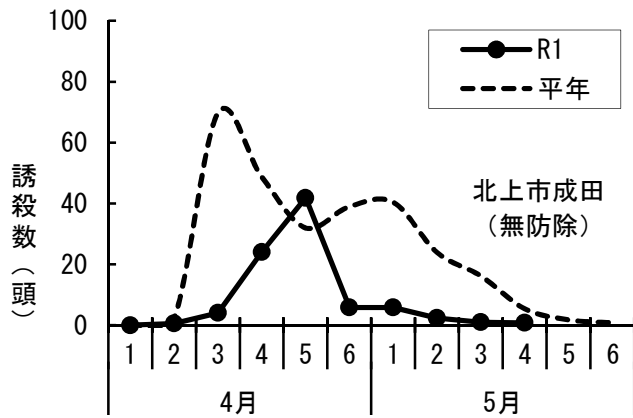


図19 無防除圃場におけるキンモンホソガの誘殺状況(北上市成田)



#### 14 果樹カメムシ類

- (1) 基準圃場（北上市成田、無防除）及び現地3園地（盛岡市川目、北上市更木、一関市大東町）の集合フェロモントラップへのチャバネアオカメムシの誘殺数は、北上市更木で5月第4半旬に、一関市大東町で5月第5半旬にそれぞれ1頭確認されたのみでいずれも平年並に少なかった（図20）。
- (2) 予察灯におけるクサギカメムシの誘殺は、盛岡市川目で5月第4半旬に1頭確認され、北上市更木では5月第4半旬現在、確認されていないが（図21）、5月後半の巡回調査では、31園地中2園地で成虫の飛来（それぞれ1頭）を確認した。

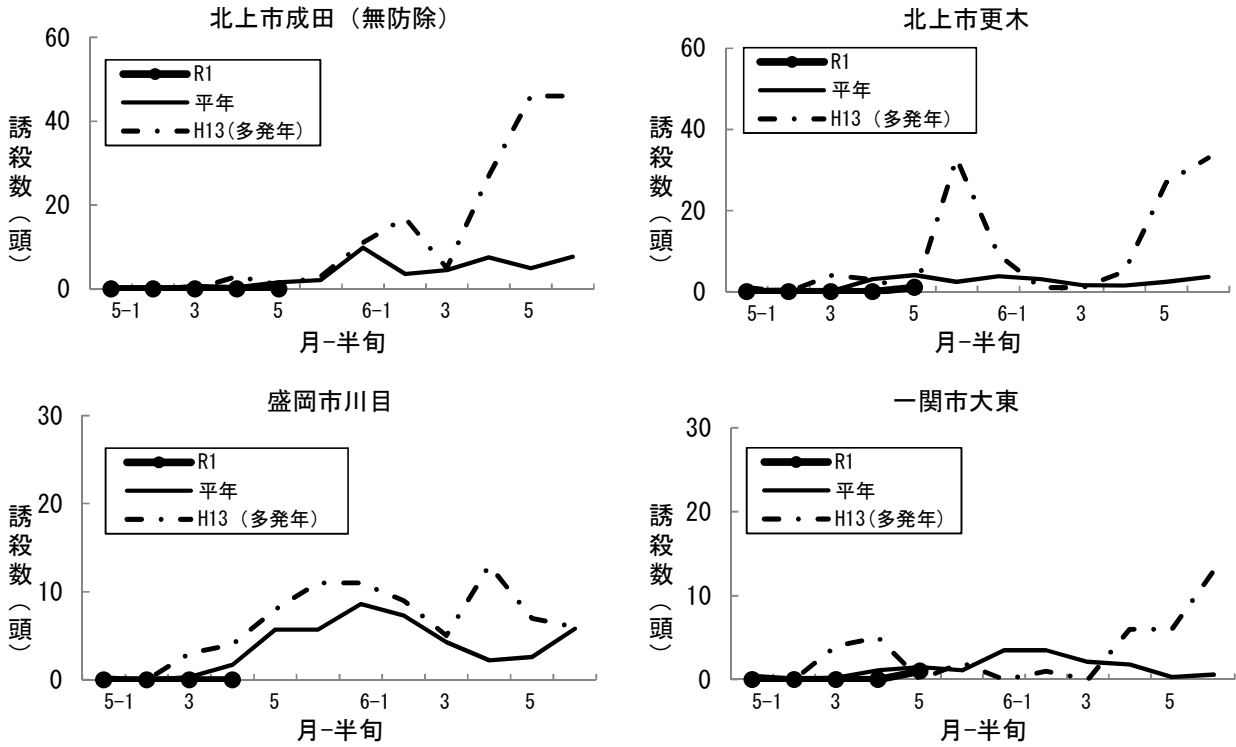


図20 チャバネアオカメムシの集合フェロモントラップへの誘殺状況

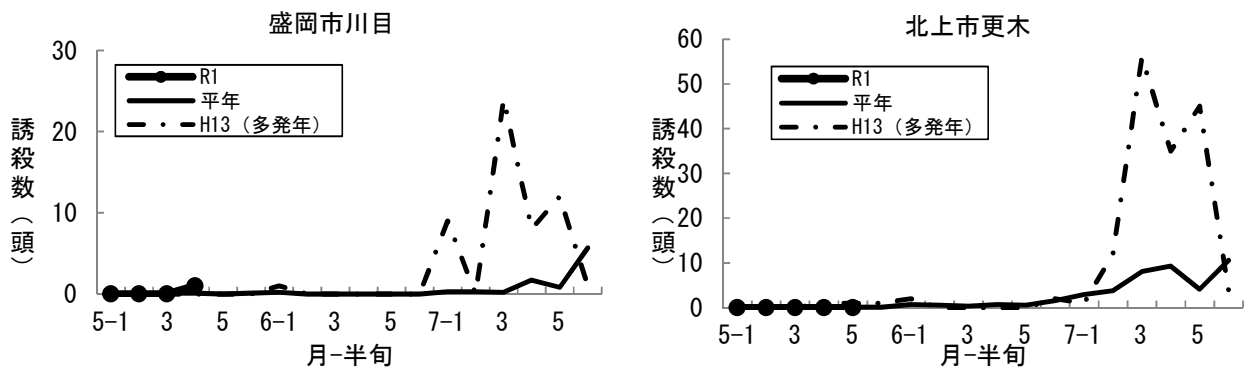


図21 クサギカメムシの予察灯への誘殺状況

# 農作物病害虫発生現況情報（5月）キャベツ編

## 1 コナガ

- (1) 基準圃場（北上市成田）におけるフェロモントラップへの誘殺は、平年より遅い4月第3半旬から認められ、その後は平年より少なく推移している（図1）。
- (2) 軽米町におけるフェロモントラップへの誘殺は、平年並の4月第5半旬から認められ、その後は平年より少なく推移している（図2）。
- (3) 岩手町におけるフェロモントラップへの誘殺は5月第3半旬から認められ、その後は平年並に推移している（図3）。
- (4) 5月の巡回調査では、産卵圃場率は平年より低かった（図4）。

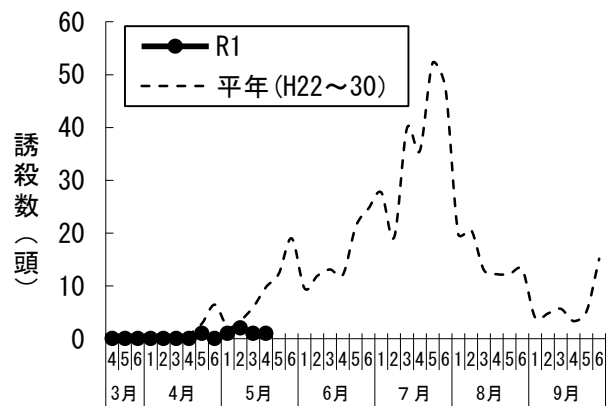
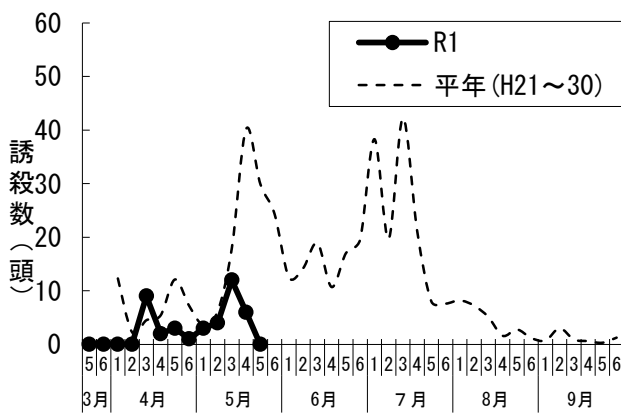


図1 基準圃場（北上市成田）におけるフェロモントラップの誘殺状況

図2 軽米町におけるフェロモントラップの誘殺状況

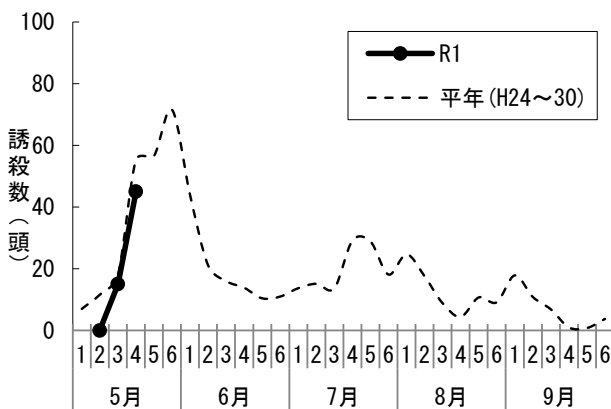


図3 岩手町におけるフェロモントラップの誘殺状況

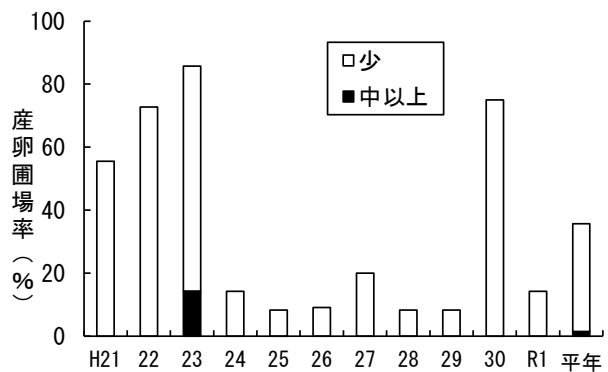


図4 コナガの産卵圃場率の年次推移（5月中旬）

## 2 モンシロチョウ

(1) 5月の巡回調査では、産卵圃場率は平年並であった(図5)。

## 3 ヨトウガ

(1) 基準圃場(北上市成田)におけるフェロモントラップへの誘殺は、5月第4半旬現在認められていない(図6)。

(2) 5月の巡回調査では、産卵は例年通り確認されなかった。

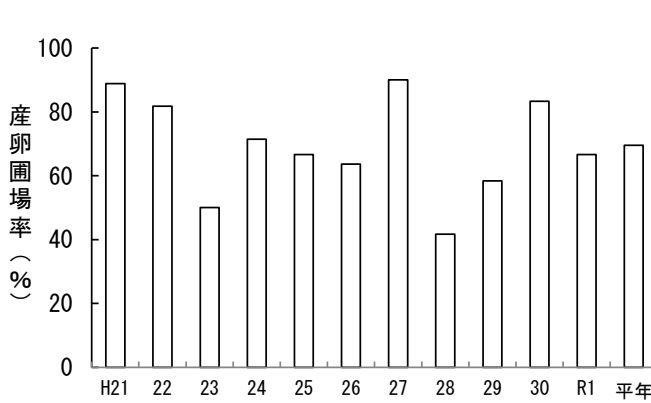


図5 モンシロチョウの産卵圃場率の年次推移 (5月中旬)

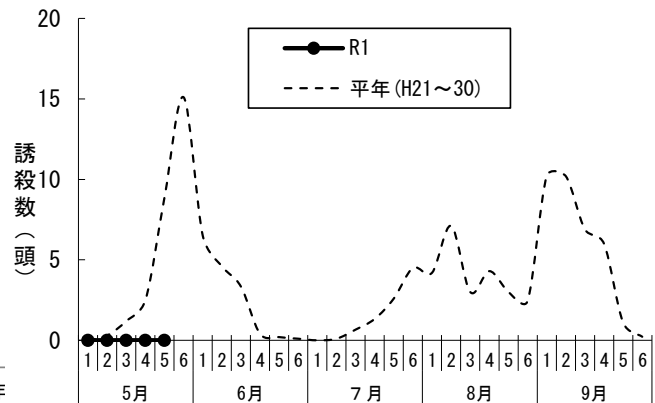


図6 基準圃場(北上市成田)におけるヨトウガのフェロモントラップの誘殺状況

## 4 タマナギンウワバ

(1) 軽米町におけるフェロモントラップへの誘殺は4月第6半旬から継続して認められている(図7)。

(2) 5月の巡回調査では、産卵圃場率は平年よりやや高かった(図8)。

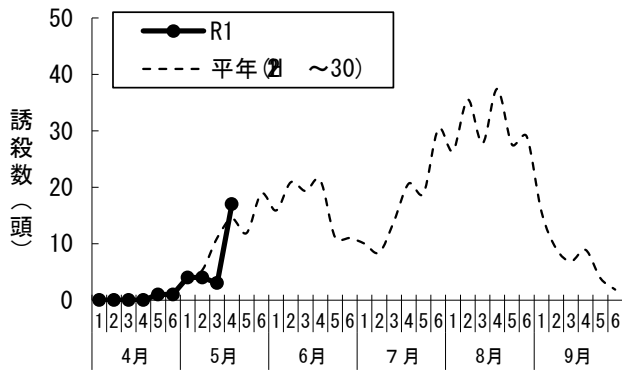


図7 軽米町におけるフェロモントラップの誘殺状況

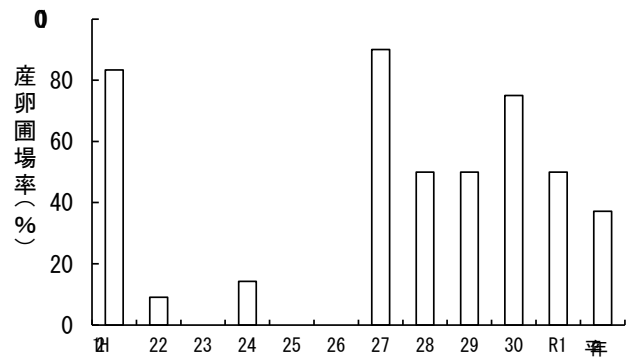


図8 タマナギンウワバの産卵圃場率の年次推移 (5月中旬)

# 農作物病害虫発生現況情報（5月） ねぎ編

## 1 さび病

(1) 5月下旬の巡回調査では、発生が確認されなかった（図1）。

## 2 ベと病

(1) 5月下旬の巡回調査では、例年どおり発生が確認されなかった。

## 3 ネギコガ

(1) 5月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より低かった（図2）。

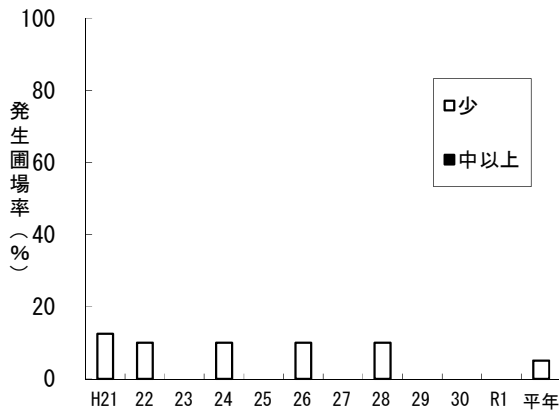


図1 さび病の発生圃場率の年次推移  
(5月下旬・発病度)

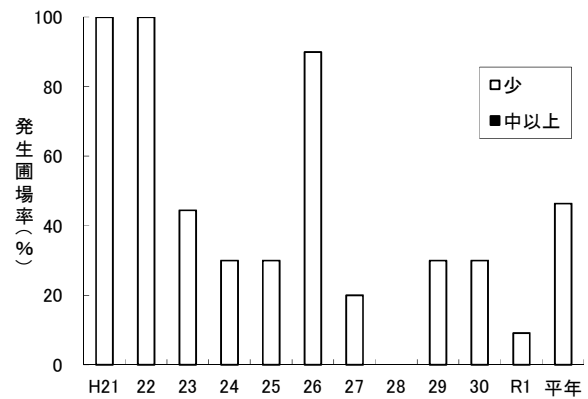


図2 ネギコガの発生圃場率の年次推移  
(5月下旬・被害葉率)

## 4 ネギハモグリバエ

(1) 5月下旬の巡回調査では、舐食痕と、幼虫による被害が確認された（図3）。

## 5 ネギアザミウマ

(1) 5月下旬の巡回調査では、発生圃場率はほぼ平年並であった（図4）。

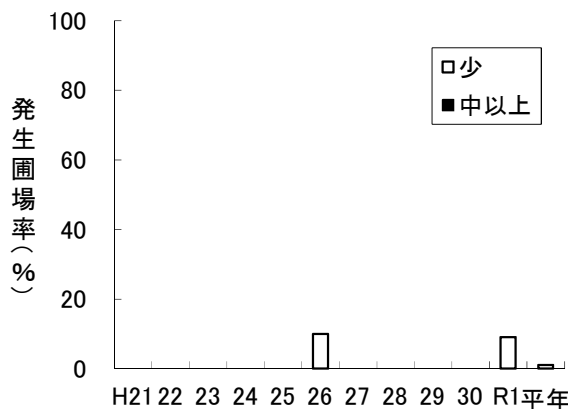


図3 ネギハモグリバエの発生圃場率の年次推移  
(5月下旬・被害度)

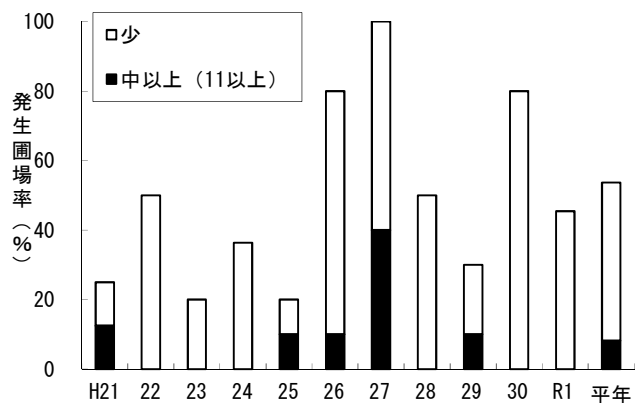


図4 ネギアザミウマの発生圃場率の年次推移  
(5月下旬・被害度)

## 農作物病害虫発生現況情報（5月）りんどう編

## 1 葉枯病

(1) 5月後半の巡回調査では、発生は確認されなかった(図1)。

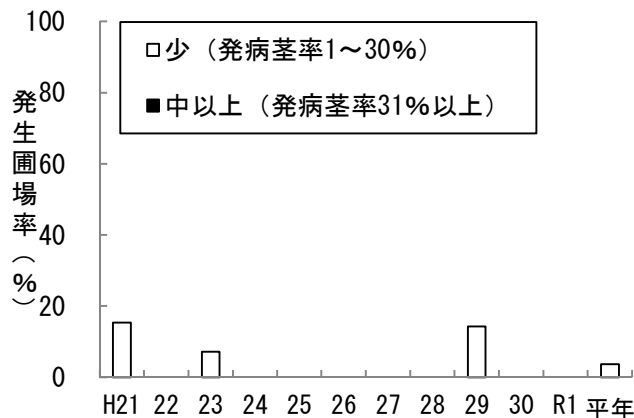


図1 葉枯病の発生圃場率の年次推移（5月後半）

## 2 ハダニ類

(1) 5月後半の巡回調査では、一部圃場で発生がみられた(図2)。

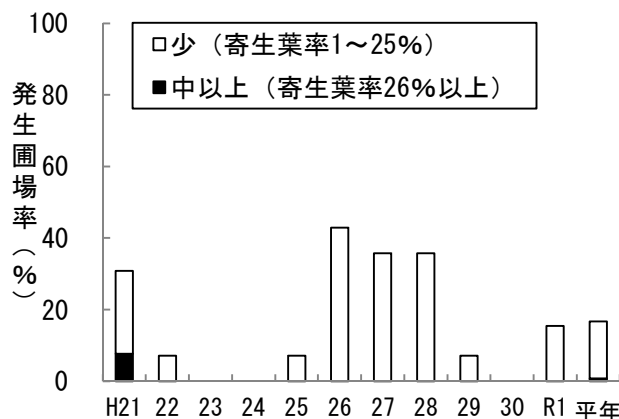


図2 ハダニ類の発生圃場率の年次推移（5月後半）

## 3 リンドウホソハマキ

(1) 基準圃場（北上市）では、5月第5半旬に越冬世代の羽化が確認された。